

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 中央市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

本市は、山梨県の外国人の最多住地区であり、特に最近、定住の期間が長引く者が多くなり、生活者としての外国人が増えきた。そのため本協会では、これら「生活者としての外国人」のために、昨年より生活に役立つ日本語を中心に、「外国籍市民のための日本語教室」を開催している。その過程で、地域の人たちが「地域の外国人の日本語教育を地域住民自らが支えたい」という願いをもつようになり、その要望に応じて、地域のボランティアを対象に日本語教育の支援者を養成する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
10月6日	山梨大学	赤池、望月、 奥村、佐野	事業内容の確認と 具体策検討	* 事業の内容・受講生・会場等の再確認 * 具体策 ・研修の内容と形態 ・その他実施上の具体策
12月21日	中央市立田 富総合会館	赤池、望月、 奥村、太田、 園田、岩波、 佐野	研修の運営上の反省と課題解決	* 方向性としては可 * 外国籍市民とのペアティーチングの成果と課題 * 教室環境 等
2月8日	中央市立田 富総合会館	赤池、望月、 奥村、太田、 園田、岩波、 佐野	研修の運営上の反省と課題解決	* 研修生の意欲の持続 * 教室運営や教材作成のための経費の調整 * 今後のスケジュール調整 等
3月15日	中央市立田 富総合会館	望月、奥村、 太田、園田、 岩波	まとめと反省	* 成果と課題

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)



3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 「外国籍市民のための日本語教室」を支援する地域ボランティア養成講座
- (2) 研修の目標 外部に頼らない自前の地域ボランティア(日本語支援者)の養成
- (3) 受講者の総数 15人
- (4) 開催時間数(回数) 60時間 (実習15回・講義(反省会やワークショップを含む)15回)
- (5) 参加対象者の要件 年齢や経験は問わず、日本語教育に関心があり、地域のボランティアとしての活動を目指す方
- (6) 受講者の募集方法

従前より中央市国際交流協会で開催する「外国籍市民のための日本語教室」において日本語指導者のサポートを行ってきた地域ボランティアが中心となって受講者を構成したため講座についての募集は特に行わなかったが、ボランティアの募集広告については、市のホームページ、広報及び協会が発行するポルトガル語情報誌に掲載、新規に加入したボランティアのうち2名が講座も受講した。

(7) 研修会場

- ア 講義 中央市立田富総合会館 2階視聴覚室
- イ 実習 同上

(8) 使用した教材・リソース

- ・「はなしてみる^{かい}甲斐」(山梨日本語ボランティアの会作成・山梨の地域性も取り入れた日本語入門テキスト)
- ・「スーパーキッド・ひらがな・カタカナ教材」(アルク)等
- ・その他多くの現状に即した自作教材
(外国籍市民の受講生を中心に、特に学習者の立場にたった教材の作成に力をいれた)

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10月19日 13:30～15:30	<p>基本的に 10:00～12:00 及び 13:30～15:30 の午前・午後の二部制で構成。午前は講師(教授者)の指導のもと受講者(ボランティア)が生徒に実際に授業を実践する実習、午後は、日本語教育についての総合的な学習及び、実践した午前中の授業の反省(資料3参照)と検証、さらに次週授業の計画、組立等を行う研修とした。</p> <p>なお、実習及び研修の内容等については、別紙(資料1)を参照されたい。</p>	山梨日本語ボランティアの会々長 望月 敏子	11名
10月26日 13:30～15:30		望月 敏子 山梨大学教授 奥村 圭子	13名
11月2日 13:30～15:30		望月 敏子	13名
11月16日 13:30～15:30		望月 敏子	13名
12月7日 13:30～15:30		望月 敏子	9名
12月14日 13:30～15:30		望月 敏子	10名
12月21日 13:30～15:30		望月 敏子 奥村 圭子	13名
1月11日 13:30～15:30		望月 敏子	9名
1月18日 13:30～15:30		望月 敏子	11名
2月1日 13:30～15:30		望月 敏子	12名
2月8日 13:30～15:30		望月 敏子 奥村 圭子	13名
2月22日 13:30～15:30		望月 敏子	10名
3月1日 13:30～15:30		望月 敏子	10名
3月8日 13:30～15:30		望月 敏子 奥村 圭子	11名
3月15日 13:30～15:30		望月 敏子	15名

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

ア 実習授業についてのアンケート(常時受講した10人について実施)

◎	よく身についた(できた)	○	だいたい身についた(できた)
△	少し身についた(できた)	×	全然身につかなかった(できなかった)

(1) 授業前の対策	◎	○	△	×
a 教案の準備・チェック・確認は?	4	5	1	0
b 教材の準備・チェック・確認は?	2	4	2	0
(2) 前時の学習が定着していない学習者への対応				
a 前回欠席者への対策・配慮等	0	5	4	0
(3) 学習者の反応				
a 授業の内容が理解できているか	1	6	3	0
b 授業の内容に、ついてきているか	1	6	3	0
(4) 学習展開				
a わかりやすく工夫したか(絵カードなど)	4	6	0	0
b 自然だったか	1	7	2	0
c 語彙の量や語彙そのものについて学習者の能力に合わせ配慮したか	1	6	3	0
d 指導内容が学習者の能力に合っていたか	1	6	3	0
e わかるまで努力したか	3	7	0	0
f アクセントなど発音は	1	5	4	0
(5) 時間配分				
a 導入・展開・まとめ等時間を適当に区切ったか	1	4	5	0
b 開始と終了の時刻は	1	4	5	0
(6) 授業者の態度面				
a 落ち着いていたか	0	9	1	0
b 学習者をよく見ていたか。また、学習者の反応にすぐ気づき対処できたか	1	5	4	0
c 学習者の発話に対し、自然に受け答えが出来たか	3	5	2	0
(7) 指示のだし方				
a わかりやすく(大きな声・ジェスチャー等)したか	3	6	1	0
b 必要であれば媒介語を使う(母語の併用・通訳)などの工夫をしたか	1	8	1	0

c	学習者の発話や活動の様子をみながら、待つなどの指示のタイミングを見たか	1	6	3	0
(8) 板書					
a	見やすくていねいに書いてあったか	1	8	1	0
b	ことばや文のくぎりをはっきりさせ、解りやすく書いてあったか	1	7	2	0
(9) 会話（談話）の間合い					
a	あいづちはよくできたか	2	7	1	0
b	自然な談話ができたか	1	5	1	0
c	質疑応答がスムーズに入れかわることができたか	1	4	5	0
(10) 教材使用					
a	準備した教材を手際よく使用できたか	1	4	5	0
(11)					
a	学習内容が身についたかチェックしたか	1	4	5	0
b	チェックの場所は的確だったか	0	6	4	0
c	チェックの方法は適切だったか	0	6	4	0
d	評価結果 NO の場合のフィードバックは効果があったか	2	3	5	0
(12) 全体として					
a	前時の反省が活かされていたか	2	6	1	0

イ 研修全般（自由表記・聞き取り調査）

a 成果

- ・ 実際に授業してみて、日本語の指導や支援の難しさと喜びがよく解った。
- ・ 学習者が解ってくれたときは本当に嬉しかった。
- ・ みんなで反省し合ったり、授業計画を考えたりして、厳しさもあったが、自分達で計画し、実践し、観察し、改善していく事が、やがて一人一人の力になっていく事を知った。
- ・ 日本語の奥深さがわかり、自分の日本語の学習にもなった。
- ・ 外国籍の受講者や学習者と接する機会が多くなり、外国人の考え方や文化について知る事ができた。
- ・ 外国人とのコミュニケーションが上手になった。
- ・ 教材を集めたり創ることの楽しさを知った。
- ・ 外国籍の人とペアを組んだので、外国人学習者の立場がよく解るようになった。
- ・ 日本人とペアだったので、レッスンプラン作りを助けてもらったり、発音を直し

てもらってよかった。

- ・ 実際にやってみて、準備の大切さがよくわかった。
- ・ 頭の中で考えるだけでなく、実際に外国人と接する中で学んでいく事がとても大切だと思った。
- ・ 教える事は学ぶことだと思った。支援といっても自分がいっぱい学んだ。そしてこれからも、反省しながら自ら学んでいかなければならないと思う。
- ・ 日本語教室といっても、多くのボランティア・地域住民・自治体・地域の大学・文化庁など、多くの人々がかかわっている事を知り、今後もこうした提携が必要だと考えさせられた。
- ・ まだ十分ではないが、日本語教育に関する取り組みの過程やいろいろな方法やがわかったので、今後は自分たちで力を合わせ、学んだり改善しながら、教室経営にも取り組んでみたいと思う。

b 課題

- ・ 学習者の能力差
- ・ 同じ受講生仲間でも、個人差があるので、これからも助け合っていくことが大切である。
- ・ 初めての経験で、予想できず、やり直し等時間配当がうまくいかなかった。そのため、カリキュラムを途中で調整しなければならなかった。今度は、経験を生かし、現状に応じたカリキュラムを作りたい。
- ・ 今度はレスンプランが作れるようになったので、事前に検討し、模擬授業などしてみるとよい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- * 限られた時間や条件の中ですべてを獲得する事は無理で、まだ課題も多いが、
く ①の受講生のアンケート・授業観察や他の授業評価の記録・反省記録等により、実践的に学んだ事の成果は大きいと思う。

・ 授業実習

実習をとおして具体的な指導・支援の方法を身に付けた事により、それぞれの学習場面に対応できるようになった。はじめはつまらなかったが、今は一週間のうちで日本語教室の開催日が一番楽しいという学習者も出てきている。また、市役所からの公文書等の通知を手に、受講者から覚えてたの日本語で質問している姿も見受けられ、個人差はあるものの研修の成果はでてきていると思える。

・ 研修全般

今後支援を続けるためには、今回の研修の内容そのものである『実践し、授業を見つめ、「授業がどうくみだてられているのか」(資料4参照)を知り、「なぜこれを教

えるのか」を考え、反省し、足りない知識や技術を学び、進んで授業を改善していく』という考え方や方法を身につけたという事が、大変役立つと思う。そしてその中から協力する事の大切さを知り、学習者の喜びが自分の喜びになった時に、それらが原動力となって、意欲的なとり組みとして将来に繋げる事ができると考えられる。現に、研修会が終わってからも、自主的に研修会を続け、進んで自分たちの手で次期入門クラスを運営していく事を決定したり、日本語教室開催日に仕事等のため欠席した学習者のために、平日の夜間個人的な補習を自主的に提供する受講生も出てきた。

- ・ 外国籍市民の受講生とのペアティーチング

外国人と組む事によって、媒介語の助けを借りたり、日本語を補ったりし合い、学習の立場に立って、授業の組み立てや教材選択ができた。

- ・ 外国人との交流

外国籍市民の受講生や学習者との交流を通して、研修生の外国人とのコミュニケーションスキルも上達し、多文化共生の意義を肌で感じるようになった。この事は、地域の国際化に大きく役立っていくと思う。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

中央市国際交流協会においては、「外国籍市民のための日本語教室」が年間を通じての主要事業となっているが、その他のイベント、事業にも日本語教育によって培ったノウハウやコミュニケーションを生かして外国籍住民の占める割合が県内一高い自治体にふさわしい支援体制を整えたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

民間団体との協働

・地域の実情がよく解っている、山梨日本語ボランティアの会(YNV)から講師の派遣を受けたり、研修事業へ研修生が参加したり、協働による成果は大きかったと思う。中央市では「外国住民のための日本語教室」として他に初級1と2のクラスが同時に開設されていたが、授業の観察やカリキュラムの作成等、これらとも連携し成果をあげた。山梨大学との連携事業ではないが、専門的分野での指導を受けることが出来た。

② 研修後の人材活用

受講者は、研修講座と並行して、協会主催の「外国籍市民のための日本語教室」初級入門クラスにおいて実践的な実習を行ってきた。来期(4月中旬開講予定)においては、受講したボランティアのうち、10名程度が同クラスを自分たちの手で運営していくことが決定している。また、その他の多文化共生事業にも、10-③で述べたとおり、この研修で得たものを生かし、活動してもらう予定であり、支援体制も充実したいと考えている。

(12) 今後の課題

- * 日本語教室の運営と研修・自主的運営になるので、独善的にならぬよう、共同研修や自己研修を続けてほしい。
- * 受講生や日本語教室の学習者を含む外国籍住民の環境の変化
 - ・ 本地域でも、不況の波を受け、仕事を失う人が増え始め、変化が見え初めている。実態にどう対応していくか、課題である。
- * 運営費の軽減
 - ・ やはり、不況下において、会社の倒産や工場閉鎖など、民間や自治体の助成も少なくなり、運営費が将来心配である。
- * 自治体組織の合理化
 - ・ 事務局として、本協会を支えてくれている自治体の組織に、国際的な専門分野がなく、他の業務と一緒になので多忙であり、また日曜日の日本語教室は担当者の個人的負担になりやすい。

実践的研修のため、実習を通して身近なところから学習を積み上げ、やがては自己研修しながら、実情に応じた支援が出来るよう、内容を設定した。

講座名と学習内容			
日時	実習(10:00～12:00)		研修(13:30～15:30)
	ひらがな・カタカナ	会 話	・授業の反省→日本語教育についての学習→次時の計画 ・[日本語教育について][指導内容と指導法]
10月19日	字の種類・五十音・ あ行・か行	1課:こんにちは	* 授業を観る ・授業の流れを考える(指導過程) ・学習者の実態(ニーズとレディネス) ・学習目的 ・一般市民と外国籍市民のベアティーチングの意義 <挨拶と自己紹介><終筆の呼称>
10月26日	さ行・た行	2課:はじめまして	* 授業を観る ・識字教育について考える ・教育の基本方針 ・シラバス1 <指示語こそあど><身近な物の名前>
11月2日	な行・は行	3課:これはなんですか	* 授業をする(以下同じ) ・授業の組み立てとレスポンスン ・学習環境(教室環境や教材教具) ・学習形態 <数字と時間>
11月16日	ま行・や行	4課:いまなんじですか	・ウォーミングアップと導入 ・期間巡視と指名 ・指示とジェスチャー <身近な助数詞> <カレンダーの読み方><過去の過去形>
11月30日	(ら行・わ行・撥音)	(5課:いくらですか)	(授業の反省と課題)
12月7日	が行・ざ行・だ行	6課:きょうはなんにちですか	・学習展開(定着練習と転移練習—一般化と応用発展)・シラバス2<発音指導><動詞の種類と活用>
12月14日	ば行・ぱ行	6課:きょうはなんにちですか	・反省に基づいて、授業の組み立てについて考える・ <長音・促音><拗音>
12月21日	長音・促音	* クリスマスパティー	・教材教具の収集と選択 ・自作教材 ・教材の活用
1月11日	拗音	6課:きょうはなんにちですか	* 授業を観る ・指示の出し方 ・学習者の能力にあった語彙やその量、指導内容、指導方法等 ・チェックとフィードバック
1月18日	拗音	7課:ぶどうをたべます	* 授業をする(以下同じ) <日常的な行動の表現><「行く」「来る」「帰る」の視点くる>
1月25日	(ら行・わ行・撥音)	(8課:かいしゃへいきます)	(授業の反省と課題)
2月1日	9課:ふじさんはたかいです (い形容詞)	9課:形容詞に関連するサバイバル用語	・適切な媒介語の使用(母語の併用・通訳) ・助詞「へ」と「に」「に」と「で」
2月8日	カタカナ行～タ行 ア	10課:ほんがあります	・人や物の存在を表すことばと助詞 ・人や物の位置を表すことば ・指示のだし方 ・能力に見合った学習量 <助詞の指導の工夫>
2月15日	(ナ行～マ行) 筆で書く	(10課:ほんがあります)	(授業の反省と課題)
2月22日	ヤ行・ラ行・ワ行	8課:かいしゃへいきます	・学習者の立場に合った教材の選択と教材づくり <な形容詞の教材>
3月1日	ガ行・ザ行・ダ行	9課:ゆうめいなふじさん (い形容詞とな形容詞)	・指導目標と授業内容の再確認
3月8日	バ行～ギャ行	シャ行～ニヤ行	・学習者の反応と気づき ・能力差への対応
3月15日	ヒヤ行～リヤ行 ティ・ディ・ファ・フォ	促音・長音カタカナの まとめと応用	・研修のまとめと自己評価

※()の内容は学習者のみで実践し、自分たちで反省し合い、それをまとめて提出し、次週講師が含めて指導した。
☆実際には ・授業実践→授業の反省→日本語教育についての学習→次時の計画 を繰り返しているの、これらを含む具体的な学習内容については、螺旋的に繰り返し学習されている。上記はその主たるものである。

日本語教室 クラスⅠ LESSONプラン

担当者 笠井 由美子

1. 日時 2009年1月11日(日) 1時限
2. 題材 ひらがな 促音の復習と拗音
3. 目標 拗音の読み書きが出来る
4. 展開

過 程	学習活動（内容）	指導者の活動	備 考
ウォームアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・あけましておめでとうございます (FELIZ ANO NOVO) ・ボードの字を読む ・相互に挨拶して練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・新年の挨拶をボードに書いておく。 <p>(通訳)</p>	正月の写真や絵
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習目標を知る <ul style="list-style-type: none"> ・促音の復習 ・拗音の読み書きができる 	<ul style="list-style-type: none"> ※目標をボードに解りやすいことばで書く <p>(必要に応じ通訳)</p>	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・促音の復習 「ねこ・ねっこ」「まくら・まっくら」などの提示された絵カードや文字カードを読む ・拗音の学習 <ul style="list-style-type: none"> ・「かいしゃ」「びょういん」など身近な拗音をいってみる ・今まで学習したひらがなの「や」「ゆ」「よ」を小さく書き表す音（拗音）について知る ・「きゃ」「きゅ」「きょ」の発音と練習 ・「きゃく」「きゅうこう」「べんきょう」など、使用例の読みと発音 ・書く練習 ・教材キットの「ふくしゅう」をする ・必要に応じ前の復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・促音（復習）・拗音のプリントの有無確認。 ・全体で読ませ、次に個人にあてる。 (※発音チェック、周りのフォロー可と先に伝える) <p>(必要に応じ通訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「や」「ゆ」「よ」及び、「ゃ」「ゅ」「ょ」の提示と注意 ・発音が難しかったら、「きあ」「きう」「きお」をだんだん早く言わせてみて、まず発音を覚えさせる。 ・机間巡視（個人チェック） ・チェック ・必要に応じフィードバック ※時間がなかったら、書き練習は宿題とする <p>(必要に応じ通訳)</p>	プリント 絵カード 文字カード 絵カード 文字カード 大教材キット 教材キット 大教材キットと教材キット 文字カード
(発 展)	<ul style="list-style-type: none"> ・ぎゃ・ぎゅ・ぎょ」「しゃ・しゅ・しょ」「じゃ・じゅ・じょ」も同じように学習する ・今日学習した拗音を使ったことばを探してくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題 <p>(必要に応じ通訳)</p>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめと宿題の確認 ・次時予告 	<p>(必要に応じ通訳)</p>	

日本語教室クラスⅠの 授業の反省 2009. 1. 11

(文責 山本)

☆ 1時限 「拗音」の指導

1. 授業者の反省（笠井）

- お正月休みが入ったので、学習者が日本語から離れている時間があったと思う。そこで、今までのひらがなの復習も兼ね、提示する文字はすべて最初に学習者に読ませてみることを心掛けた。
- 拗音のみでなく、前回の促音の復習もあったので、時間的に12種類すべての拗音を教えることができなかった。しかし、想像していたよりも拗音の発音がスムーズに言えていたので、テンポよく授業を進めることができた。
- 今までは、他の方々の授業を見ている立場だったので、反省会では言いたい放題であったが、実際、自分で授業をやってみると、準備から始まり、とても大変なことがよくわかった。
- 緊張したが、全体的に私個人としては楽しく授業ができた。

2. 感想・意見

- ゆっくり大きな声で説明しており、わかりやすい授業だった。その証拠に学習者がよく頷いていた。
- 現在どこを勉強しているかわかりやすいように、黒板の資料を工夫して掲示していた。
- 以前にもいったが、学習者に「よみ」の練習をさせる際に、何度か順番どおりに読ませたあとは、読ませる文字をランダムにするほうがよかった。

☆ 2時限 はなしてみる甲斐6課「ぶどうをたべます」の指導

1. 授業者の反省（森越）

- 準備不足のため、皆さんの協力でなんとか授業をこなすことができた。
- 教具は学習者に身近なものでよかったと思うが、あまり手際よく使用できなかった。

2. 感想・意見

- 中央市の日本語教室はポルトガル語を話せるボランティアがいることがひとつの強みである。しかし、あくまで日本語で日本語を教えることを基本としているので、なるべく身振り手振りやその他のツールを使うなどの工夫が必要だと思う。

☆ 望月先生の指導・助言

- 笠井さんの授業はリズム感があり、テンポよく学習者を導き、楽しい授業になったことはとてもよかった。楽しく学ばせる事ということは大変効果的である。
- 森越さんの授業は、外国人として、学習者と同じ立場で、授業を組み立てた事はよかったが、媒介語の使用が少し多かったように思う。媒介語を使う必要性やタイミングをもう一度考えてみよう。
- 学習者の混乱を招かないためにも、教室内で使うジェスチャーは（疑問形、否定形、過去形等）を統一したものにする。指示カードを使うのもよい。
- 学習者に説明する際に使う語彙は、なるべく学習者の能力に適した、みんながわかるような語彙を使うよう配慮する。
- 資料の中に新しい語彙がでてくる時は、実物や絵などを用意し、（抽象語のときは、媒介語をつかってよい）まず意味を説明しておく。
- 今後、学習者にとってよりよい授業ができるように、各授業の担当者は前の週にプレ授業を行うので、各自準備をすること。

授業をくみだてる

<資料4-学習資料>

